

### Ⅲ 小・中合同部会

## 特別支援教育部会（小学校の部）

**研究主題** 一人一人の個性を生かしながら、  
社会適応能力を高めるための自立活動の在り方

### 1 主題について

特別支援学級には様々な実態の児童生徒が在籍するが、教科指導と同様、自立活動の授業でも実態に応じて支援の工夫をすることが求められている。そこで、様々な障害特性に応じた自立活動の在り方を研究することをねらいとして、本テーマを設定した。

### 2 今年度の取組

月 日	実践内容	月 日	実践内容
4月10日	第1回総合研究会 研究主題設定・年間計画作成	11月13日	第2回総合研究会 授業研究会（扇田小学校）

### 3 研究内容

#### (1) 授業研究

- |      |                          |      |   |
|------|--------------------------|------|---|
| ・期 日 | 平成26年11月13日（木）           | ・会 場 | 扇田小学校                                   |
| ・単元名 | 生活単元学習・自立活動<br>「なかよしタイム」 | ・授業者 | 間嶋 祐樹（扇田小）<br>近藤 織子（扇田小）<br>佐々木真友子（成章小） |

#### ① 授業者から

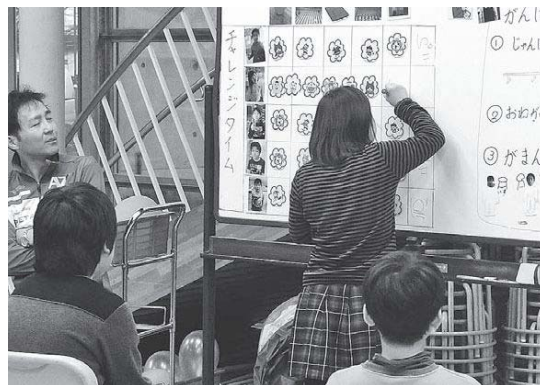
- ・昨年度より成章小と扇田小で交流している。4年男児は自分から発言することが増えた。彼にとってピクトカードは有効だった。
- ・今回初めてカルタを取り上げたが、6年女児は切り替えが難しかった。そこで、風船を選択するなど、自己決定の場を増やすようにした。
- ・体育館での授業も考えたが、まとまりと落ち着きを考えてホールでの授業を選んだ。
- ・通常学級の6年男児はこの時間だけ交流している。彼の我慢する姿を、他の子の参考にさせてきた。
- ・導入で「今日はみんなそろって……」という話から入ると、子どもたちは授業に入っていない。デジタル紙芝居を活用して、スムーズに活動に入っていけるように配慮した。

#### ② 協 議

- ・ピクトカードなど、視覚に訴える支援がたくさんあり、効果的だった。デジタル紙芝居は大変よかった。ビデオにすれば、もっと分かりやすかったのではないかな。
- ・ほめるタイミングがよかった。また、一人一人に応じた言葉が用意されていて感心した。
- ・風船を選ぶ、カルタの対戦相手を選ぶなど、自己決定の場面が用意されていた。
- ・振り返りの場面を大事にしていた。活動終了直後の自己評価が効果的だった。評価に使った花丸マークに一工夫があり、子どもの励みになっていた。
- ・場面緘黙児への支援・対応が素晴らしかった。無理に話をさせないで、受け入れていた。



【トンネル遊びの様子】



【振り返りの場面の様子】

(2) 指導助言（北教育事務所 指導主事 伊藤 登美子）

- ・知的障害のない児童に対して、生活単元学習を実施することはできないため、今回は自立活動として設定することを助言した。特別支援学校学習指導要領自立活動解説編を参照にしてほしい。自立活動と生活単元学習を同時に実施することはあまりない取組なので、参加者にとって参考になったのではないか。
- ・デジタル紙芝居や場所の目印としてのカラーコーンの設置など、子どものつまずきを想定し具体的な支援が考えられていたのがよかった。子どもへの指示が簡潔で分かりやすかった。受容と共感に基づく対応がなされていた。
- ・学習の場が構造化されていたことによって、子どもたちにとってやるのが分かりやすかった。授業を行ったホールは、教師にとっても子どもにとっても「目が届く」「声が届く」ちょうどよい場・環境であった。
- ・課題の一つは安全面での配慮である。トランポリンの位置など、危険を予想して対策を考えておく必要があった。場所にはり付いたり、児童の対応に当たったり、場面に応じたTTの役割や動きを考えておくことが大切である。
- ・客観的な評価につながるように、より具体的な子どもの姿でねらいを設定することが重要である。また、自立活動の指導においては、実態に応じた自己評価を取り入れることも大切にしたい。
- ・指導案に関して、単元の目標は、自立活動の六つの区分ではなく、その下の項目を選定し、それらに関連付けて設定すること。単元の計画についても、自立活動と生活単元学習のねらいを区別して表す必要がある。

## 4 成果と課題

(1) 成果

- ・デジタル紙芝居やピクトカードなど、視覚に訴える支援が効果を上げていた。
- ・興味を引く活動が多様に準備されていた。児童に応じた多様な言葉かけがなされていた。
- ・近隣の学校間の交流を継続することで、児童に多様な成長が見られた。

(2) 課題

- ・視覚的な支援に加え、実態に応じて文字情報による支援も活用したい。
- ・切り替える力を伸ばしていくためにも、それぞれの活動のゴールを明確に示すことが必要。
- ・学校間での交流を進めていくとともに、校内での交流活動も進めていくようにしたい。